

---

# 君が好き。～初恋～

実依

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

君が好き。〜初恋〜

### 【Nコード】

N3789Y

### 【作者名】

実依

### 【あらすじ】

あなたとの出会い…

それが、あたしを変えたの。

君が好き。の続編です。

文章書くのは苦手ですが私の思いを綴っていきたいと思います。

メール。

ドキドキとワクワクと…

あたしの勇気が沢山詰まってる。

好きにな人にメールを送るって…

こんなにも勇気があるものなんだね。

君にメールを送る時。

何回も文章を見直した。

その度に書き直して

手を震えせながらメールを送った。

ドキドキして

ワクワクして…

送信した後、思わず携帯を隠してしまう。

戸惑いの気持ちと期待の気持ち。

色々な気持ちが入り交じって…

頭の中がパンクしてしまいそうだ。

短い文章の中にありったけの想いを詰め込んだメール。

返事…

来るといいなあ。

## 返事。

君からもらったメールは宝物。

『またメールしようね〇( ^ - ^ )〇』

本当に本当に嬉しかった。

思わず保護して繰り返し見てしまう自分がいて…

他の人からみたら

たいしたことがない短文メールかもしれないけれど

あたしにとっては宝物だったんだ。

君からの言葉が

君からの顔文字が…

嬉しくて

顔が歪んで

ニヤニヤしちゃったりして…

ドキドキして…

心臓がうるさい。

メール1つでこんなにも

幸せな気持ちが止まらない。

メール1つでこんなにも

心を乱されるなんて思わなかった。

好きな人からのメールって…  
こんなにも嬉しいんだ。

君と初めて。

5月。

君を含め友達数人で遊んだ。

君と初めて遊んだ。

いつもとは違う。

私服の君。

制服じゃない君の姿が新鮮で。

何だかカッコ良くみえる…

無邪気に友達とじゃれあう姿。

元気な明るい声。

いつもと違った君。

そんな君にあたしはずっとドキドキしてた。

カラオケ行って

ゲーセン行って…

いつも友達と行って場所なのに  
なぜだかいつもと違って見える。

『プリクラ撮ろう』

友達の一言に嬉しさと緊張が走る。

君の近くに写りたくて…

君のすぐ下に入ってみた。

あたしの頭の上に君の顔が来て…

恥ずかしさ顔が火照る。

あのプリクラ。

今でもあたしの宝物だよ。



待ち合わせ。

君とデート。

でもこれってデートって言うていいのかな？

みんなで遊ぶはずだったのに  
予定が合わず二人だけに…

『二人だけどうする？』

遊ぶなくなっちゃった…

あたしはそんなことを考えた。

だけど君は

『二人で遊ぼう』

びっくりした。

心臓が飛び出るかと思った。

けどね…

とっつてもとっつても  
嬉しかった。

君と待ち合わせ。

デート当時。

服が決まらない!!

どういう服が好みなのかな？

この服どうかな？

どうしよう…

普段あまりしない覚えたてのメイクをほんのりしてみる。

少し可愛く見えるかなあ？

いくら時間があっても足りないくらい

自分とにらめっこしていた。

用意に時間がかかりすぎて10分遅刻。

怒ってないかな？

呆れられてないかな？

急いで向かう待ち合わせ場所。

そんなことを考えながら自転車を飛ばす。

待ち合わせの本屋さん。

ドアの近くに君の姿が見えた。

ふと君と目が合った。

気付いた君は笑顔で手をふる。

『お〜い!!』

いつもの笑顔。

あたしの大好きな君の笑顔が

そこにあっただ。

緊張の後に。

君とデート。

でもこれってデートって言うていいのかな？

緊張しすぎて顔が見れない。

きつとあたし真っ赤な顔してる。

君と入ったカラオケボックス。

緊張して声が出ない。

あたしこんなに音痴だっけ？

恥ずかしくて更に緊張…

お互い無言の帰り道。

神様あたしに勇気を下さい！！

そんな願いが届かぬまま

『バイバイまたね。』

何でかな…

どうして上手く話せないんだろう。

どうして顔が見れないんだろう…

嫌われてないかな…？

そんなことを頭の中でぐるぐると考える。

情けなくて涙が出てくる。

もっと勇気が出せたはずなのに…

そんなことを考えてたら

急に携帯が震えた。

バイブの音…

ふと携帯を見ると

君の名前。

『恥ずかしくて上手く喋れなくてごめんね。』

そっか。

君も照れてたんだ。

あたしだけじゃなかったんだね。

『今日は楽しかったよ。』

良かった…

あたしだけじゃなかったんだ。

緊張しすぎて失敗ばかり…

だけどね

とっつてもとっつても楽しかったんだ。

片想い。

先月より先週…

先週より昨日…

昨日より今日。

君との距離が少しずつ近付いていく。

デート以来…

君とのメールの数が増えた。

あたしからだけじゃなくて…

君からもメールが来るようになった。

あれ以来

少しずつ少しずつ

距離が縮まったように思える。

仲良くなれてるのかな？

徐々に近付いてるのかな？

君ともっともっと

仲良くなりたい。

テスト期間。

きっと君も忙しい。

そう思ってメール止めた。

だけど…

彼と関わらないと寂しくて…

ちよつとでいいから関わりたくて。

切なくて

切なくて…

君を想うようになってから不安やドキドキが毎日のように募る。

今君は何してるんだろう。

何を思っているんだろう。

来るわけないって分かっているのに、携帯開いてメールの問い合わせとかしちゃう自分がいる。

君に会うたびに好きが増えていく。

君を想うたびに気持ち募っていく。

あたし君に片想いにしてるんだ。

君からのお土産。

突然君からメール。

『今から会えない？』

最寄り駅まで猛ダツシユ。

改札前に君が見えた。

息切れを必死にこらえて君に手を降った。

何だかいつもより照れた顔してる…

君は鞆から袋を取り出す。

『これお土産！』

それだけ言い残して改札の中へ走り去った。

ドキドキ…

ドキドキ…

お土産…？

あたしに…？

信じられない。

嬉しすぎて夢なんじゃないかと

何度も思っては頬を叩いてみた…

痛い…



夢じゃない…

駅から家への帰り道。

ドキドキしながら袋を開ける。

『チリン…』

音と同時に可愛いストラップ。

ちっちゃな熊が付いていた。

可愛い…

思わずぎゅっと握りしめる。

嬉しい…

すごく嬉しいよ…

君から貰ったストラップ。

あたしにとって一生の宝物にするんだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3789y/>

---

君が好き。～初恋～

2011年11月30日23時58分発行